

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

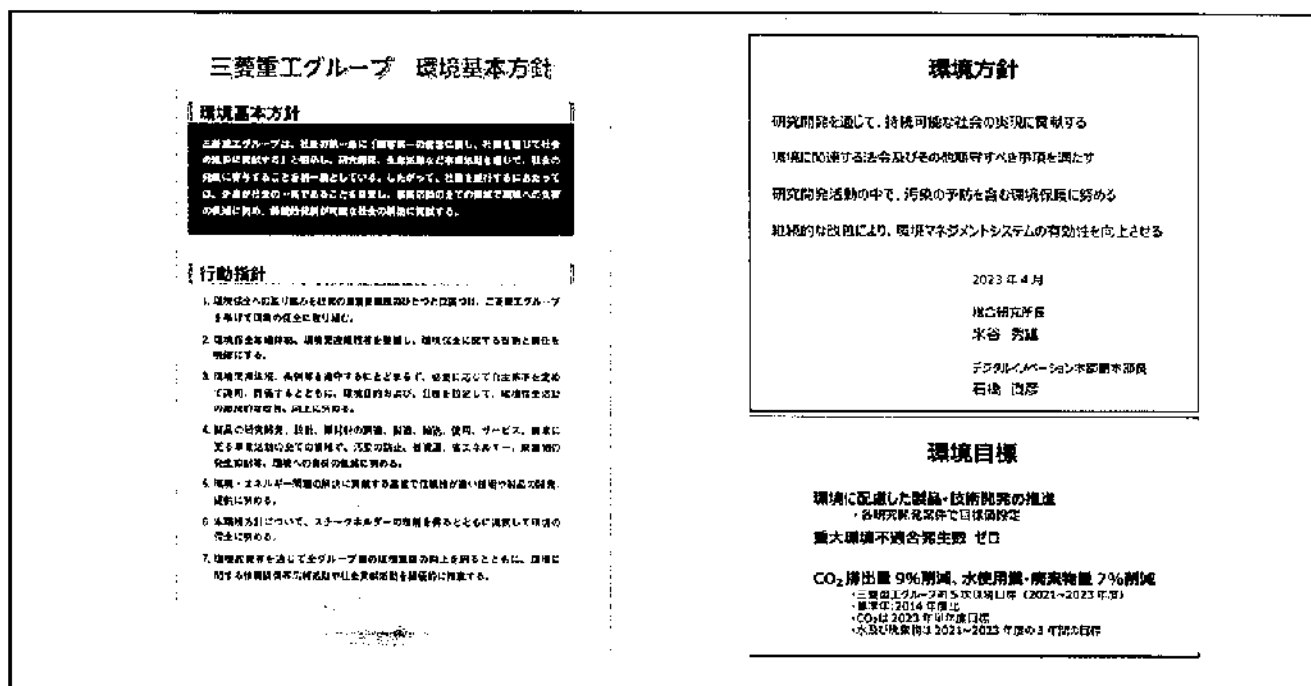
地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	三菱重工業株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区丸の内三丁目2番3号
工場等の名称	三菱重工業株式会社 総合研究所 名古屋地区 岩塚
工場等の所在地	名古屋市中村区岩塚町字神田1番地
業種	学術研究、専門・技術サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	当社製品全般の研究、開発
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

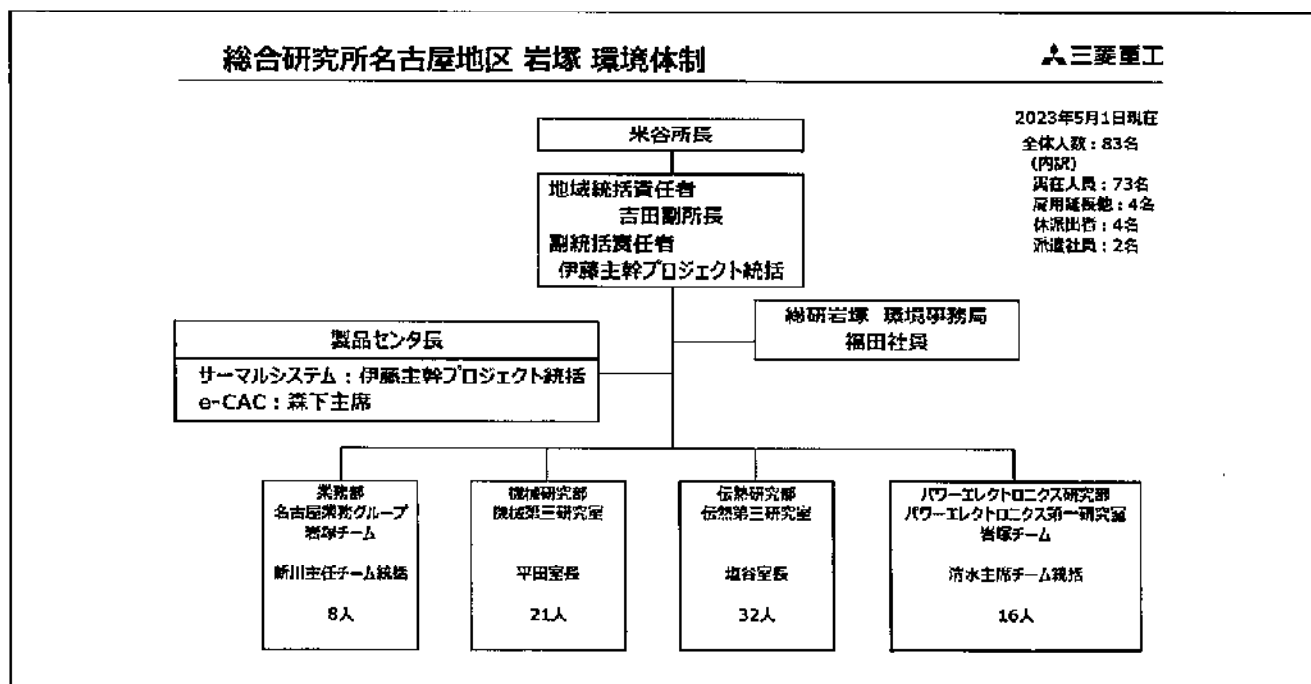
公表期間	令和5年6月2日 ～ 令和5年8月31日		
公表方法	☒	揭示 閲覧	（場所） 三菱重工業株式会社総合研究所業務部 名古屋業務グループ 岩塚チーム（四樓窓11）
	☐	ホームページ	HPアドレス）
	☐	冊子	（冊子名・ 入手方法）
	☐	その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-412-0199		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針



(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,766	t-CO ₂
（①を除外する 二酸化炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,766	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	1,724	t-CO ₂	1,672	t-CO ₂	1,766	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 2.4	%		%		%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

大容量・大能力機種（従来機対比2～5割出力大）の試験研究に対応している影響で電力使用量が増加し、基準年度に対し温室効果ガス総排出量が2.4%増となった。引き続き設備更新等の省エネ活動を推進し、目標達成に向けて取り組んでいく。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
エネルギー消費量の把握及び管理	・エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析	・使用実績を見える化(毎月)	・使用実績を毎月見える化し、増減の要因分析等を実施した。
省エネルギー・省資源の推進	・空調機の適正使用の励行(冷房28℃、暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・昼休み、定時後における照明のこまめな消灯	・省エネの意識向上	・6月・11月に所員全員に省エネ取り組みの徹底を依頼・周知した。
省エネルギー・省資源の推進	・照明のLED化 ・老朽化空調機器の更新	・老朽化設備の更新	・蛍光灯(40W×2灯)65台をLED4000lmに更新し、年間3,750kWh(推定)の電力を削減した。 ・老朽化した空調機を6台を更新し、年間19,000kWh(推定)の電力を削減した。
省エネルギー・省資源の推進	・試験設備の効率的運用による稼働時間の低減	・試験稼働時間の低減	・試験設備運転の効率化や無人運転の許可制の運用等を実施した。
自動車利用における取組み	・出張時における公共交通機関の利用促進 ・出張時に自動車を利用する場合の経済運転の励行(急発進・急加速をしない、アイドリングストップの確実な励行等エコドライブを推進)	・エコドライブ(急発進・急加速をしない、アイドリングストップ推進)を通じたCO2排出量の低減	・公共交通機関の利用呼びかけ、会社所有車の利用要領や交通安全教育などを実施した。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・環境教育・訓練による意識の向上 ・環境に配慮した製品・技術開発を推進した。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・省エネ意識の向上
